

殺虫剤

モスピラン[®]ワン粒剤

日本曹達(株) 農業化学品事業部 普及グループ



はじめに

モスピランワン粒剤は、日本曹達(株)により開発された、作物定植後の株元散布用製剤です。アセタミプリドを有効成分とし、現行のモスピラン粒剤とは異なる使用場面を想定しています。平成21年5月13日にきゅうり、なす、トマト・ミニトマト、ピーマンで登録認可になり(登録番号：第22369号)、平成21年6月より販売を開始しております。

ここに、本剤の特徴、使用方法等について取りまとめましたので、ご使用やご指導の参考になれば幸いです。

有効成分と製剤

成分	アセタミプリド	1.0%
	その他鉱物質微粉等	99.0%
試験番号	NI-31粒剤	
剤型	粒剤	
性状	淡青緑色細粒	

安全性

ラット急性経口毒性(LD ₅₀)	>2000mg/kg	♀
ラット急性経皮毒性(LD ₅₀)	>2000mg/kg	♀、♂
皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
眼刺激性	ウサギ	刺激性なし、腐食性なし
皮膚感作性	モルモット	陰性

特長

本剤は、果菜類等の定植後の株元施用により地上部

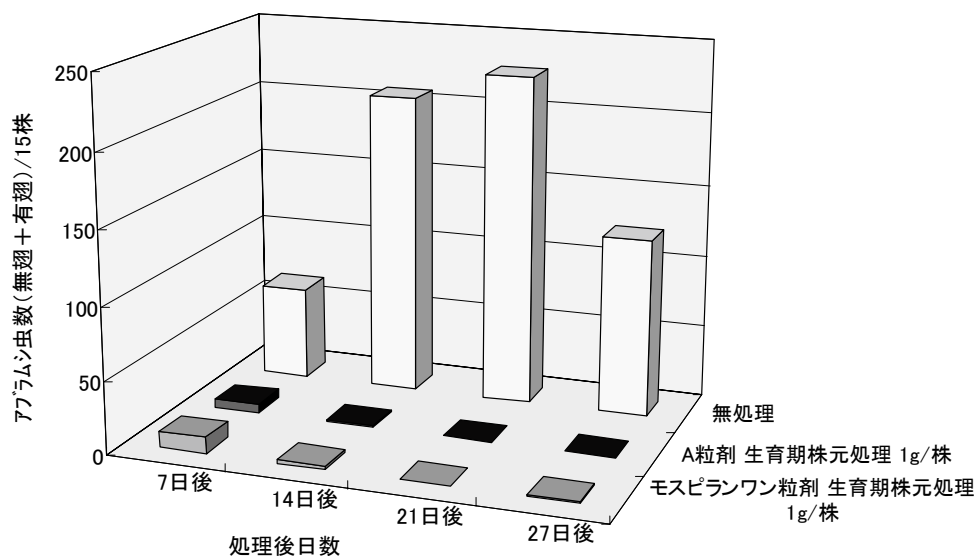
害虫の防除が可能な製剤です。アブラムシ類を主対象害虫としていますが、アブラムシ以外にコナジラミ類にも適用可能です。さらに、ミナミキイロアザミウマについても、現在、登録申請中です。

モスピランワン粒剤は中～小規模栽培で手軽に処理できる製剤として開発されたもので、植え穴処理やセルトレイ処理による大規模栽培を主要な適用場面として製剤されたモスピラン粒剤とは異なる適用場面を想定しています。

生物効果

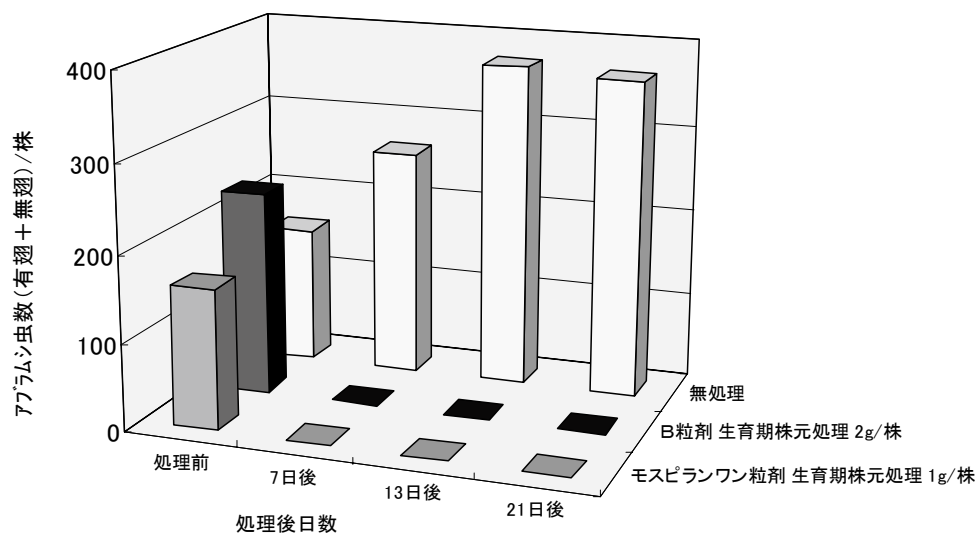
モスピランワン粒剤はきゅうり、なす、トマト・ミニトマト、ピーマン等の作物の株元処理により、アブラムシ類に2～3週間以上の効果を示します。また、コナジラミ類やミナミキイロアザミウマにも有効です。粒剤の土壌処理では土壌の種類、降雨量(灌水量)、気温、作物の発育ステージ、施用方法等の違いにより適した処理条件がありますが、モスピランワン粒剤についても同様です。本粒剤及びアセタミプリド原体の特性を考慮した、効果的な処理条件での使用が望ましいと考えます。これらの解析結果については、本誌p20-26で詳述しておりますので、ご参照ください。その結果をご参考に、処理条件に応じた、より効果的なご使用をお勧めします。

図1及び2に日本植物防疫協会への委託試験結果を示しました。



試験場名 鹿児島県農業環境協会 植物防疫部会
 実施場所 鹿児島県南さつま市金峰町 農業開発総合センター園場
 対象害虫発生状況 少発生
 耕種概要 品種:シルフィー(かぼちゃ台木接木苗)、平成18年4月28日定植 畝間80cm、株間50cm
 区制 1区8m²(1.6m×5cm)、3連制
 処理方法 定植4日後の平成18年5月2日に所定量の薬剤を株元処理し、処理直後適量の灌水。
 作物ステージ 処理7、14、21、27日後に15株について全葉に寄生するワタアブラムシ数を調査。
 薬害については、虫数調査時に肉眼観察。

図1 モスピランワン粒剤の生育期株元処理によるきゅうりのワタアブラムシに対する効力(H18鹿児島植防)



試験場名 兵庫県植物防疫協会
 実施場所 兵庫県姫路市勝原区丁 露地園場
 対象害虫発生状況 モモアカアブラムシ 少発生
 耕種概要 品種:千両2号、定植4月28日 株間 35cm、2条植え
 区制 1区3.2m²(14株)、2連制
 処理方法 定植7日後の平成18年5月5日に所定量の薬剤を株元処理し、その他灌水。
 調査方法 処理前、7、13、21日後に各区10株について全葉に寄生するアブラムシ数を調査。
 薬害については、虫数調査時に肉眼観察。

図2 モスピランワン粒剤の株元処理によるなすのモモアカアブラムシに対する効力(H18兵庫植防)

登録内容と使用上の注意

モスピランワン粒剤はきゅうり、なす、トマト、ミニトマト、ピーマンのアブラムシ類に1～2g/株、きゅうり、トマト、ミニトマトのコナジラミ類に1g/株を株元散布します(表1)。きゅうり及びなすのミナミキイロアザミウマには現在、適用拡大申請中です。

本剤はミツバチやマルハナバチに影響の少ないアセタミプリドを有効成分となっておりますが、蚕に対しては影響のある原体ですので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

おわりに

本剤は小～中規模栽培や家庭園芸で手軽に処理できる製剤として開発された製剤です。本製剤の特長を理解していただき、使用量、使用時期、使用法に従い、効果的に使用していただけたら幸いです。

最後になりましたが、本剤の開発に協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

表1 適用作物、適用害虫、使用法等

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
きゅうり	アブラムシ類	1～2g/株	定植後 但し、 収穫前 日まで	3回以内	株元散布	5回以内（2%粒剤の定植時の株元散布は1回以内、2%粒剤の定植後の株元散布は1回以内、散布、くん煙及び1%粒剤の株元散布は合計3回以内）
	コナジラミ類	1g/株				
なす	アブラムシ類	1～2g/株				4回以内（粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内）
トマト ミニトマト	コナジラミ類	1g/株				4回以内（粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内）
ピーマン	アブラムシ類	1～2g/株		2回以内		3回以内（粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計2回以内）